Activity report in 2021
Obama Project
Prefectural University of Hiroshima

2021年　オバマプロジェクト
活動報告書

県立広島大学

オバマプロジェクト

今年度の活動の経緯

私たちは 6 名のメンバーを中心に多くの方々の協力のもと、今年度の活動を行っていきました。今年度は「日本人学生と外国人学生で平和について共に考え、平和意識の比較をする」という目的を持ち活動していきました。この目的にした理由は、2019 年に行われた活動をさらに掘り下げたいと考えたからです。2019 年の活動目的は「学生同士で平和について考える時間を持つ」でした。そこでは様々な地域から集まった日本人学生がこれまでの平和学習を振り返り、これからの平和教育のあり方、大学生としてどのような平和活動ができるのかについて議論をするとともに、平和教育に対してのアンケート調査が行なわれていました。そこで私たちは海外と日本の平和教育では違いがあるのか、日本人学生同士の議論だけではなく、外国にルーツを持つ留学生とも平和について考えたいと思い、この目的を持って活動しました。

活動報告①

令和 3 年 3 月 22 日に、広島県立広島第二高等学校第 2 期生の切明千枝子さんをはじめとする被爆体験伝承者受講生の「切明さんグループ」の方々の研修活動の一つである、フィールドワークに参加させて頂きました。そこでは広島キャンパス構内にある第二県女記念碑や本学の近くにある、被服支廠で当時の出来事、記念碑、建物の歴史などについてお話を聞くことができました。フィールドワーク後には主に被爆当日の様子について詳しく話して下さり、当時の被害の情景が目に浮かぶほど生々しく、悲惨であったことがひしひしと伝わってきました。また切明さんの考える平和や、戦争を知らない私たちにできることなどを質問させていただき、私たち学生は微力ながら無力ではなく、学生には学生にしかできないことがある、とおっしゃって頂きました。

切明さんの言葉を胸に、これからも平和活動をより活発に続けていきたいと思います。

貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

活動報告②

私たちは日本人だけで平和について考え、学ぶのではなく、外国にルーツをもつ留学生と一緒に平和について考えることも大切だと思います。そして日本人と留学生の間で平和に対しての価値観や考えに違いはあるのか、平和な世界になるためにはどのような取り組みが必要なのか学び合っていきたいという強い思いから国際交流会を開催しました。国際交流会の開催日時は 2021 年 7 月 8 日　12 時 15 分から 12 時 50 分（日本時間）です。日本人学生 9 人、留学生 9 人（外部生 1 人を含む）が交流会に参加して下さいました。

以下に交流会の流れ、参加して下さった留学生の出身国、話し合いの内容、交流会に対しての参加者とオバマプロジェクトメンバーの感想（考察）を記したいと思います。

1. 当時の流れ

時間	内容
12:15-12:20	初めの挨拶と流れの説明
12:20-12:45	交流（小グループに別れて交流）
12:45-12:50	最後の挨拶（各グループで意見交換、写真撮影）

2. 留学生（外部生も含む）の出身国

国籍	人数
インドネシア	4 人
韓国	2 人
中国	2 人
アメリカ	1 人

3. 話し合いの内容

前提条件	みんな魔法使いであり、自分がしたいことは何でもできる。
テーマ	① 現在の世界、自国で起こっている問題やニュースで自分が気になっているものを何か。 ② その問題に向けてどのように取り組みたいか。
グループ数	3 つ

グループ①　（日本人学生：3 人・留学生：3 人）

学生	気になった問題やニュースとその理由
日本人学生 A	ミャンマー国軍のクーデター 理由：人々が安心して生活できていない上、不当な逮捕や民間人の死傷が繰り広げられているから。
日本人学生 B	アフリカで起こっている紛争問題 理由：何も罪のない人の命が脅かされている状況が良くないと思ったから。
日本人学生 C	スエズ運河の座礁に日本のコンテナ船がぶつかってしまい物資が送れなかったというニュース
留学生（中国）	コロナウイルスを理由としたアメリカで起こっているアジア人差別 理由：アジア人としてこの助教は大変心苦しいから。
外部生（アメリカ）	アメリカ人の健康問題 理由：多くの人が食べ過ぎて肥満になってしまっているので、健康状態など心配だから。
留学生（インドネシア）	イスラエルとパレスチナの対立問題

グループ①ではミャンマーで国軍クーデター問題及び政府や軍による市民の死傷問題と戦争問題の解決策を話し合うことに決定

① ミャンマーで国軍クーデター問題及び政府や軍による市民の死傷問題と戦争問題の解決策

学生	解決策
日本人学生 A	憲法で軍の力は大変強いと記載されているため、なかなか民主化がすすまない状況である。だから憲法内容を改正し、市民の命を脅かさないことを明記する。
日本人学生 B	暴力は絶対に行使できない話合いの場を作る。軍側と市民側が対等に話し合うことのできる場を設ける。
日本人学生 C	国民の命を最優先にすることを誰もが考えられるように魔法を使う。デモが起こった時に、暴行、武力によって鎮圧しようとするが、魔法で国民の命を最優先にするよう仕向ければ度々問題になっている市民の死傷はなくなる。
留学生（中国）	対立した問題を見つけ、みんなが納得できる妥協点を見つける。 また話し合いの場を作ることが大切。
外部生（アメリカ）	公平な選挙によって、代表者を決める。市民から選ばれた代表者であれば、市民の声を反映した政治を行い、彼らの命が脅かされることはないだろう。
留学生（インドネシア）	全員の考えを一つにする。意見の違いが争いにつながってしまうので、一つの考えにする。その上で新しい国を作っていく。

（まとめ）暴力や武力によってデモなどを解決することを禁止し、みんなが対等に話あえる場を設けることが大切だ。

② 戦争問題に対する解決策（時間の都合上、十分に話し合う時間が取れなかった）

（まとめ）資源の偏りが戦争や争いにつながっていることがある。
→各国、各地域の資源を平等にする。
例えば石油が取れていない国であれば、石油と同等の価値のあるものをその国に与える。

グループ②（日本人学生：3 人・留学生：4 人）

学生	気になった問題やニュースとその理由
日本人学生 A	香港の報道の自由が規制されていることについて
日本人学生 B	新型コロナウイルスについて 理由：ワクチン接種の順番の格差があることに疑問を持ったから
日本人学生 C	原爆について
留学生（インドネシア A）	新型コロナウイルスについて
留学生（インドネシア B）	新型コロナウイルスについて 理由：母国でも感染者が増えており、気になっているから
留学生（中国）	ハイチの大統領暗殺について
留学生（韓国）	東京オリンピックについて

グループ②では取り上げた人数が一番多かった、新型コロナウイルスについて、またコロナ禍において東京オリンピックを開催することについて、話し合うことに決定

①新型コロナウイルスについての現状と解決策

学生	現状と解決策
日本人学生 A	現状：緊急事態宣言の効力が薄れてきていると感じる。 解決策：他国のようにロックダウンのような手法をとるべき。
日本人学生 B	解決策：一人一人が意識することが必要。
日本人学生 C	現状：経済を優先させすぎたと感じる。
留学生（インドネシア A）	現状：母国では感染者が増えている。店なども閉まっており、マスクは 1 枚だけでなく 2 枚重ねでつけている人が多い。
留学生（インドネシア B）	現状：緊急事態宣言を出した時だけ少し感染者が減るがそれ以外の期間は意識しない人が多くなっている。 解決策：他人事と思っている人が多いので、部屋にいることなどをしっかり一人ひとりが意識することが大切である。

留学生（中国）	現状：母国ではマスクを外していても安全な地域が増えている。 解決策：他の解決する問題があると思うが、今はコロナウイルスの感染者を減らすことだけを考えるべき。
留学生（韓国）	現状：母国でのワクチン接種は高齢者から始まり、現在は兵役している人や、戦争が起こった時に参加する年齢の男性がワクチンを打っている。

（まとめ）感染拡大を防止するためには一人一人が意識することが大切であり、今はコロナ対策に徹底すべきだ。

②コロナ禍における東京オリンピック開催についての意見と解決策

学生	意見・解決策
日本人学生 A	開催賛成 延期したうえで中止するのは選手がかわいそう。
日本人学生 B	開催賛成 無観客でやってほしい。 また、いろんな媒体で、オンラインで放映してほしい。そうすれば地方に住んでいる私たちでも楽しむことができそう。
日本人学生 C	開催賛成 コロナ対策はしっかりと行ったうえで開催してほしい。
留学生（インドネシア A）	開催賛成
留学生（インドネシア B）	開催反対 大人の事情でやらざるを得ないのだろう。 コロナが増えるので不安。
留学生（中国）	どちらともいえない ① 人の命のため、開催しない方がよい ② 何年もオリンピックのために準備してきた という二つの大きな意見が存在しており、ボランティアに参加する人などはこの二つの板挟みになって大変だと思う。
留学生（韓国）	開催賛成

	理由：オリンピックを開催することで感染者が増えてしまうのではないかという不安はあるが、楽しみがないので、盛り上がるオリンピックが開催されることで楽しめるのではないか。

（まとめ）東京オリンピック開催はコロナウイルス拡大が懸念されるが、選手のことを考えると開催すべきかもしれない。また、開催に当たっては無観客で行うべきである。

グループ③（日本人学生：3名　留学生：2名 ）

学生	気になる問題とその理由
日本人学生 A	コロナウイルスによるアジア人の差別について
日本人学生 B	外国人技能実習生の差別について 理由：ベトナム人の技能実習生の友人がきっかけで、この問題について興味が湧いたから。
日本人学生 C	世界中の人と気軽にコミュニケーションが取れないこと。 理由：アプリとかではなく生の声を通して世界中の人と通じ合いたいけど、言語という大きな壁によってそれが叶わないのが残念だから。
留学生（韓国）	ワクチンについて 理由：ワクチン接種の証明により学費が免除されるという制度が韓国にはあり、そこから興味を持ったから。
留学生（インドネシア）	コロナウイルスについて 理由：「コロナは人為的に作られたものだ」、「ワクチンの開発が早すぎるのでは」といった謎を多く感じるから興味を持った。

グループ③ではコロナウイルスに関連するワクチンについて話し合うことに決定

① ワクチン接種について

まず導入として「ワクチン接種に対して何を思っているか」の意見交換を行った。

学生	意見
日本人学生 A	TV ではワクチン接種により亡くなったというケースも聞くから怖さを感じるけど、皆が打つなら打とうかなという思い。自分の思いを重視するというよりかは周りに合わせたい。
日本人学生 B	ワクチンが打たれ始めてからまだ早く、分からない点もあるから様子を見て打つかどうかを決めたい。
日本人学生 C	周りの友人や知人から、発熱・痙攣・吐き気といったワクチン接種後の副反応について聞き、正直怖くて打ちたくないと思っている。
留学生（韓国）	ワクチンの供給が先進国に偏っているから、世界中の国々に広がっていけばいいなと思う。
留学生（インドネシア）	コロナウイルスが突然湧いたり、ワクチンも一年以内ですぐに開発されたりと、コロナ自体まだ謎が多いと感じる。また、デルタ株といった新たな変異種も表れており、それらにワクチンが対応できるのかという疑問もある。でも皆が打つなら打ちたいと思っている。

（まとめ）コロナウイルスに対して未知である点が多く、それもあってかワクチンに対して不安を抱く人が多かった。だから自分の思いだけで判断するというよりかは、周りの動向を見て接種を決めたいという人が多かった。

② 世界平和のためにどのような魔法を使いたい？

最後に「世界平和のためにどのような魔法を使いたいか」というテーマで意見交換を行った。

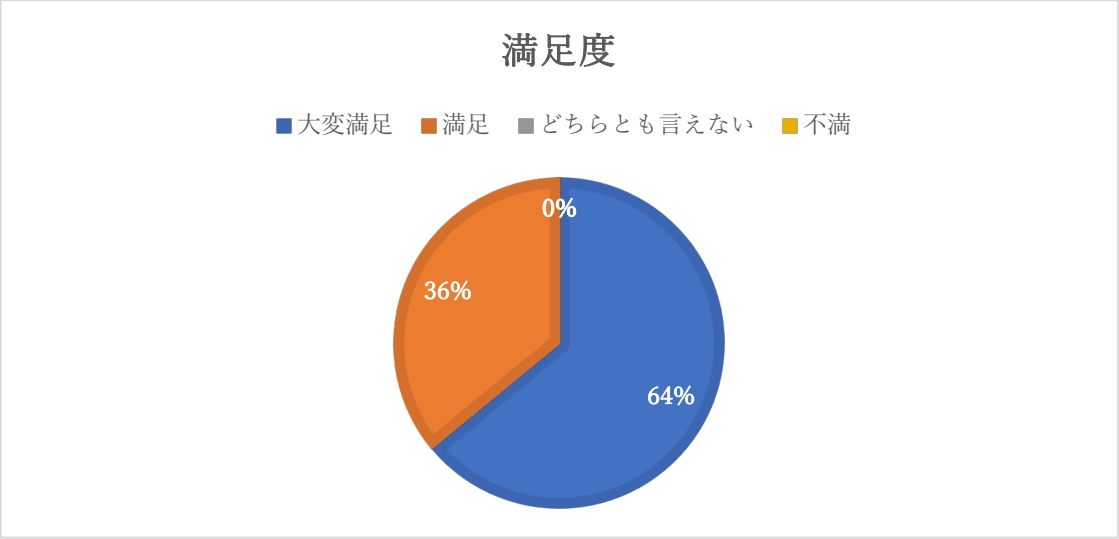
学生	魔法と理由
日本人学生 A	ワクチンの副作用をなくす魔法
日本人学生 B	コロナをなくす魔法
日本人学生 C	コロナが無かったかつての世界に戻れる魔法
留学生（韓国）	コロナをなくせる魔法
留学生（インドネシア）	誰もが嘘をつかなくなる魔法 理由：紛争や戦争といった平和を脅かす出来事の元凶は人々が嘘をつくことにあると思うから。

（まとめ）現在世界の平和を脅かしているものはコロナウイルスであるという認識を抱える人が多く、そのウイルスを解決すれば世界平和を実現できるということから、それに関連する魔法を使いたいという意見が多かった。

4. 参加者から国際交流会に対する意見（交流会に対するアンケート回答より）

日本人学生	・留学生の方達と交流して楽しかった。 ・外国で起きていることや、同じ問題に対しても自分とは異なる考えを知ることができてよかった。 ・留学生の方の日本に対する考えや母国のことについて聞くことができて、とても楽しかった。 ・しっかりと自分の意見をいうことができた。堅苦しい雰囲気ではなかったため、発言しやすかった。
留学生	・いろんな国の人たちと話題のニュースについて話ができて楽しかった。 ・コロナの対応の重要性をはっきり認識できた。 ・様々な国の人たちと興味深い話題について話せて嬉しかった。 ・多くの人から重要な点について聞くことができた。 そして自分の意見がより豊かになった。

今回の国際交流会の満足度



5. オバマプロジェクトメンバーの国際交流会（話し合い）についての感想・考察

大﨑　祐芽	私はこの交流会を経て、誰もが安心して暮らせるような国にしていくためには、話し合うことが何よりも大切だと改めて感じた。暴力や権力によって話し合いを終わらせようとするから、人々の不安、不満は高まるとともに、殺傷などが生まれていく。話し合いの場を設けることが小さな争いを防ぐことができ、そして大きな争いへ発展することもないのだろう。また平和問題というと、国籍関わらず紛争や戦争といった問題を取り上げていた。このことから命が無差別に奪われている状況に多くの生徒は関心を寄せ、問題視していることが分かった。 戦争や紛争が起きないようにするためには魔法を使ってどうするのかという質問に対して、ある生徒が「戦争が身近にないため、解決策がよく分からない」と言っていたことが大変印象に残った。確かに戦争のない国に住んでいれば、死ぬかもしれないという恐怖もなく、安心して暮らせるため、戦争についてあまり考えない。そしてなぜ戦争が起こるのか、戦争の悲惨さも薄れ、分からなくなる。だから平和に暮らせるということが当たり前になり、戦争といったことが他人事になってしまわないために、平和について一人一人が考え、他者と意見を交流し平和に対する理解を深め合うことが重要だ。
重森　亮俊	私自身至らない点が多かったゆえにディスカッションを上手く進行させることが出来なかったが、それでも参加して下さった方々のおかげで充実した時間を過ごせたので、本当に感謝の気持ちしかない。 そして一人一人の意見を深掘りすることはできなかったが、コロナウイルスは世界全体における問題であり、世界平和のためにはワクチン以外でコロナウイルス（以下「コロナ」とする）の解決方法を見出すべきだとディスカッションを通して考えた。例えばコロナによってアジア人の差別が起きているという意見が挙げられ、また、世界でコロナ感染者が増え続けていることから、これは国籍を問わない世界共通の問題であると改めて認識した。そこで現在コロナに有効な一つの手段であるワクチンについて意見を交わしたが、私のグループ全員がそれに対する不安を抱いていた。例えばワクチン接種による死亡のニュースに不安を感じるという意見や、これから新たに生まれ続けるかもしれない変異株に対しワクチンが対応できるのか疑問だといった意見が出た。これらを通し、私は世界の平和を脅かすコロナに対し、ワクチンに頼りきりな現状を変えて新たな解決への道を探る必要があると考えた。

西井　菜々実	終始、分け隔てなく、お互いに疑問に思っていることなどを質問しあうことができたので、オンラインであってもその距離を感じない、楽しく充実した交流会となった。交流会のトピックとしての「もし自分が魔法使いだとしたら、その問題をどう解決したいか」とは少し離れた、現実的な解決策を話し合ってしまったが、留学生の皆さんの母国の新型コロナウイルスの現状や、日本の新型コロナウイルスの対策方法との比較について話を聞くことができ、より今の日本のコロナウイルスの現状の深刻さを理解することができた。 また、東京オリンピックの開催については「絶対に開催してほしい」という意見がでなかったことにこのまま開催してもいいのかという不安を覚えた。実際東京オリンピックが開催されてみると国内での盛り上がりを感じたが、その反面コロナ感染者は増える一方である。日本は緊急事態宣言などの従来の対策方法とは違った、より効力の強い対策を講じるべきではないかと感じた。 だが、このオンライン交流会を通して、コロナ禍であっても楽しさを味わうことができた。対策方法についても考慮しつつ、コロナ禍ならではの楽しみ方もどんどん生み出していきたい。

6.全体写真

活動報告③

私たちは 2019 年度に県立広島大学に通う日本人学生に対して「平和学習について」のアンケート調査を実施しました。このことから、日本人学生の中での出身地の違いによって、それまでに行ってきた平和学習の内容に違いがみられることが分かりました。

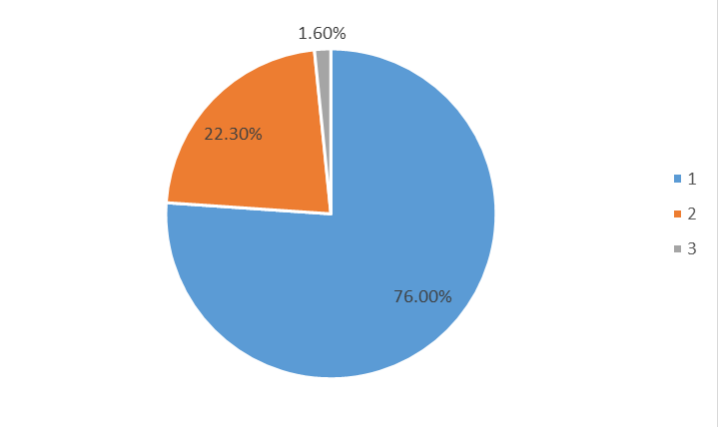
そこで今年度は留学生に対して「平和学習について」のアンケートを実施することで、そもそも留学生は平和学習を今まで行ったことがあるのか、またその平和学習の内容は日本で行われている平和学習とどのような違いがあるのかについて分析・考察したいと考えました。

以下はアンケートの集計結果です。回答数は 121 件でした。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

1.Gender

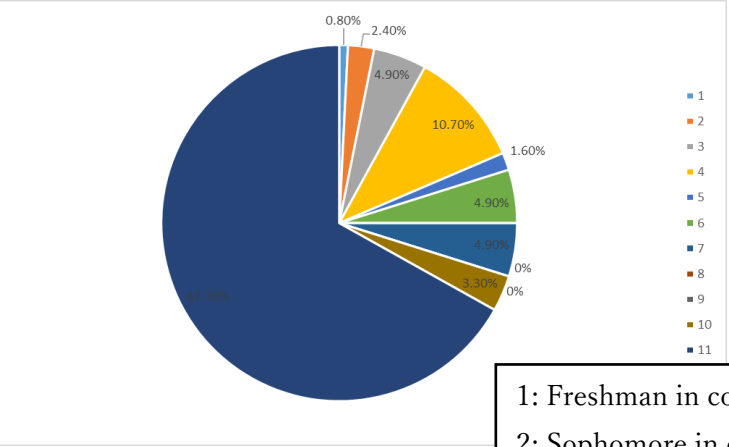
性別



1:Man 男性
2:Woman 女性
3:Other その他

２.School grade

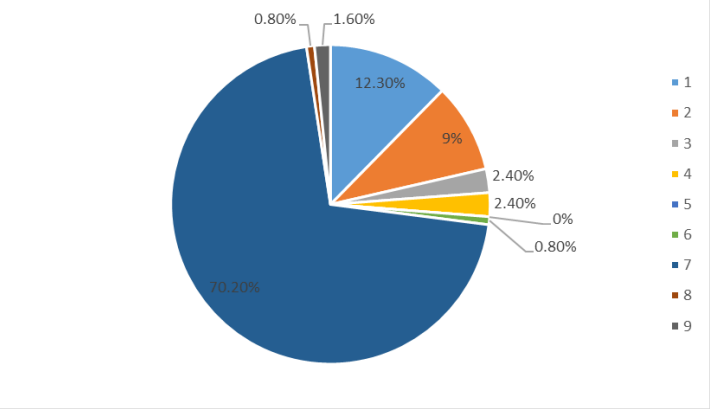
学年



1: Freshman in college　大学 1 年生
2: Sophomore in college　大学 2 年生
3: A third year college student　大学 3 年生
4: A 4th year college student　大学 4 年生
5: A first year Master's student 修士 1 年生
6: A second year Master's student 修士 2 年生
7: A first year Doctor's student 博士 1 年生
8: A second year Doctor's student 博士 2 年生
9:A third year Doctor's student 博士 3 年生
10: Research student 研究生
11: Other　その他

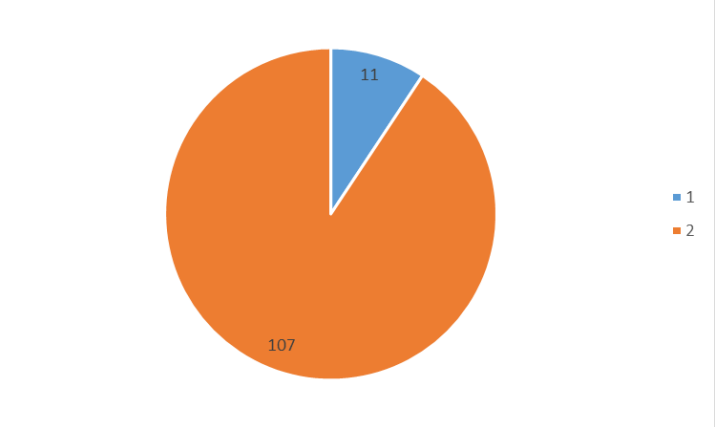
3.Where is your nationality？or Where are you from?

出身国又は出身地域を教えてください。



1.Indonesia インドネシア
2.China 中国
3.Korea 韓国
4.Malaysia n マレーシア
5.Taiwan 台湾
6.Thailand タイ
7.American アメリカ
8.United Kingdom イギリス
9.Other その他

4.Have you ever had peace education?
今まで平和学習をしたことはありますか。

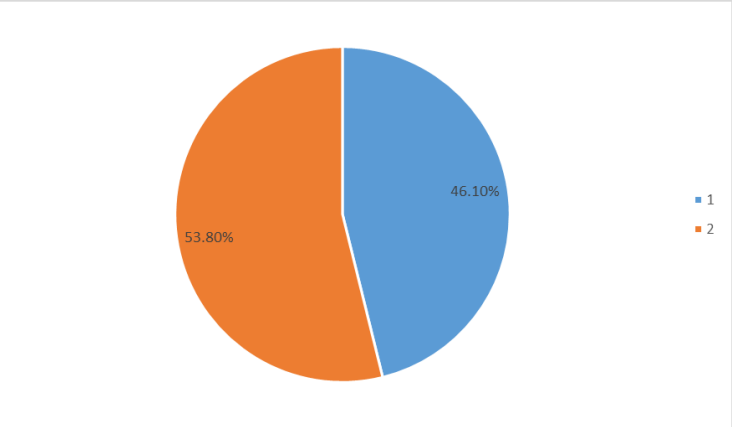


1.Yes はい
2.No いいえ

5. If your answer is Yes,- When did such a program or class take place?
平和学習をしたことがあるのであれば、いつ平和学習をしましたか。（全１２回答）

・小学生の時
・中学生の時
・文化人類学の授業の中で
・平和祈念館に訪れた時
・中国の学校では何度も平和学習をしたことがあり、特に小学生の時
・2017 年
・2019 年
・去年（2 回答）
・広島大学のオンライン授業にて
・マレーシア（母国）で小中学校に通っていた時。平和についての教科書があった。
・インドネシアの学校で

6. If your answer is Yes,-Have you been to the Peace Memorial Museum for peace learning?
その平和学習において平和資料館などに行きましたか。

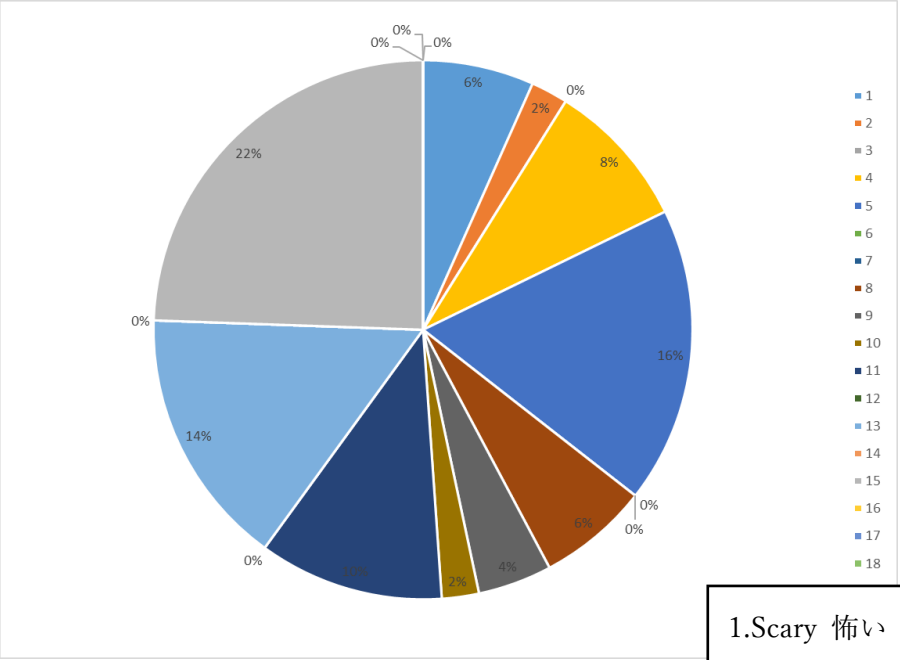


1.Yes はい
2.No いいえ

7. If your answer is Yes, -Where is the museum?
どこの資料館ですか。（全 6 回答）

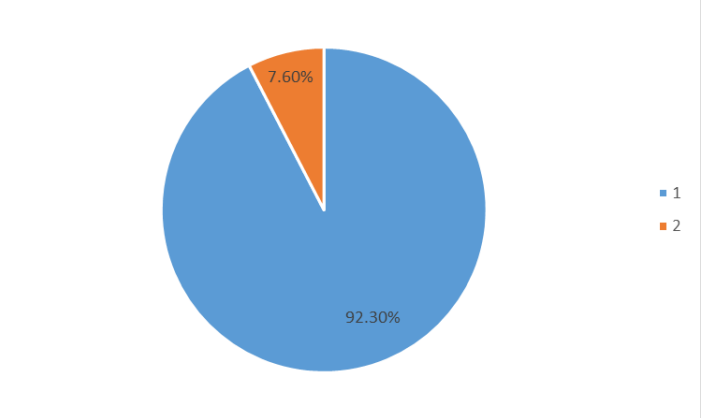
・広島（3 回答）
・インドネシア　ジョクジャカルタ
・中国　重慶
・原爆ドーム、その周辺の施設

8. What kind of image did you have of the peace learning you have studied so far?
今まで受けてきた平和学習にどのようなイメージを持ちましたか(複数回答可)。



1.Scary 怖い
2.Fun 楽しい
3.Funny おもしろい
4.Cruel 残酷
5.Useful ためになる
6.Useless 役に立たない
7.Boring つまらない、飽き飽きする
8.Exciting わくわくする
9.Heavy as a theme テーマとして重い
10.Light as a theme テーマとして軽い
11.I want to learn more もっと学びたい
12,I don't want to learn any more これ以上学びたくない
13.I want to think seriously 真剣に考えたい
14.I can't help thinking seriously 真剣に考えても仕方がない
15.Important Issues 大切な課題
16.Not important issues 大切な課題ではない
17.There is no point in learning 学んでも仕方がない
18.Others その他

9. Do you think that the peace learning you have studied has strengthened your own feelings for peace?
今まで受けてきた平和学習によって、あなた自身の平和への思いは強くなったと思いますか。（全 13 回答）



1.Yes はい
2.No いいえ

10.What kind of peace learning have you learned so far? (feel free to provide as much detail as you want).
***In this question, Peace Learning is "Learning what can be done to bring society closer to a state where it is not disturbed by war or violence." For example, war, bullying, discrimination and other such issues. [Ex: I went to XX for fieldwork. / I heard a story about a war.]**
今まで受けてきた平和学習の内容を具体的に教えてください。
このアンケートにおいて、「平和学習」とは「戦争や暴力で社会が乱れていない状態に近づけるためにできることについて学ぶこと」と定義します。例えば、戦争、いじめ、差別問題などです。例:フィールドワークで〇〇へ行った。ある戦争についての話を聞いた。
（全 13 回答）

・南京大屠杀に見学したこと、広島原爆ドームを観光したこと
・学校で、いじめの問題や韓国戦争について学んだこと
・戦争についての話を聞いたこと
・授業中に先生の性差別に対する考え方を聞き、グループディスカッションを行ったこと
・学校で学生たちを集めて戦争に関する映画を見て、博物館に見学に行ったこと
・正義必勝
・原爆問題。被爆者たちの心の中に残っていることの影響
・第五福竜丸についての話を聞いたこと

・インドネシアにおける過去の戦争での植民地化について学んだこと
・平和公園で戦争の話を聞いた
・戦争と人種や宗教を含む社会的差別についての話を聞いたこと

・At school I started to study about wars in history and their impacts to society and people, I learned that keeping peace is very important as well. When I have the opportunity to study here in Japan, I visited the peace memorial monument (atomic bomb dome) and the museum, there I can feel the sadness, pain, desperate of people who are affected by the bomb, who lost their families, and made me cry (I was a bit surprised bcs all the time I was studying about the history of war only but not about the people who affected by the bomb), after the museum experience, I realized that disadvantages of wars are really cruel and torturing people, I continue to learn about keeping peace everywhere, because world peace is so beautiful and I hope the world could be a better place and peaceful.
訳）学校では、歴史上の戦争が社会や人々に与える影響について学び始め、平和を維持することが非常に重要であることを学びました。日本で勉強する機会があったとき、平和記念碑（原爆ドーム）と平和資料館を訪れました。そこでは、爆弾の影響を受けた人々や家族を失った人々の悲しみ、痛み、絶望を感じることができます。私は泣いてしまいました。（私は戦争の歴史についてだけ勉強していましたが、爆弾の影響を受けた人々についてはあまり勉強していなかったので少し驚きました。）資料館見学の後、私は戦争の不利な点が本当に人々を苦しめ、残酷であることに気づきました 世界平和はとても美しく、世界がより良い場所で平和になることを願っています。私はどこでも平和を維持することについて学び続けています。

・In Malaysia we have incident on 13th May 1969, this is one of the huge riot happened in Malaysia involving races in Malaysia. For your information, in Malaysia we have many races mainly Malay, Chinese and Indian. Many innocent people were killed in this riot. All Malaysian will learn about this incident in History class and it taught us that it is really important to tolerate between races so that we can live peacefully in same country despite different races and backgrounds.
訳）マレーシアでは 1969 年 5 月 13 日に事件が発生しました。これはマレーシアの人種が原因で起こった大暴動の 1 つです。 ちなみに、マレーシアではマレー、中国、インドを中心に多くの人種がいます。 この暴動で多くの罪のない人々が殺されました。 すべてのマレーシア人は歴史の授業でこの事件について学び、人種や背景が異なっていても同じ国で平和に暮らせるように、人種間で寛容であることが非常に重要であることを教えてくれました。

アンケート結果についての分析・考察

日本人学生と違い、同じ国でも平和学習を全くしたことがない人が存在することが明らかになった。またアメリカでは回答して下さった全員が平和学習をしたことがなかった。アメリカでは日本のように戦争問題に関しての授業ではなく人種差別についての歴史、そしてその問題に関する授業があるが任意である。そのため平和教育について学んでいく生徒は少ないのかも知れない。また平和教育が浸透していないのは歴史的背景そして現在の政治も影響しているだろう。

核兵器、戦力を抑え、争いが起きないようにするためには、質問９で平和学習によって平和への関心が強くなったと答える人が９割いたことから、平和学習を世界で行い、戦争・原爆によって受けた悲惨さ、被害を伝えていく必要がある。

海外の生徒でも平和教育に関して重要だと捉え、もっと学びたいと考えている生徒が存在していた。一方で日本人学生は平和学習が重要だと考えつつも、もっと学びたい生徒は少なかった。このことは平和学習の内容が受動的であり、内容に偏りがあることが原因だと考えられる。戦争や人種差別など何かに特化した平和教育ではなく、多角的な視点からの平和教育を今後していくべきだと感じた。

オバマプロジェクトの活動を行うにあたり、ご指導を頂きました県立広島大学　植村広美教授、Steven L. Rosen 教授、中石ゆうこ准教授、国際交流センターの皆様、そしてブランド企画推進課の皆様に心より感謝申し上げます。

報告書作成

Obama Project 2021 年度　メンバー
県立広島大学　大﨑祐芽　重森亮俊　西井菜々実
時枝真暉　中谷歩未　古川萌梨